

AYA 支援チームのモデル作成に関する研究（分担研究課題名）

研究分担者 徳永えり子

独立行政法人国立病院機構 九州がんセンター乳腺科 部長

AYA 世代がん患者サポート体制の充実のために、がん診療に関わる全ての医療スタッフが AYA 世代のがん医療の現状、課題についての関心を高め、理解を深める必要がある。そのため、院内職員および院外医療者に AYA 世代のがん医療の現状、課題に関する研修会、講演会を開催した。また、AYA 世代のがん患者の問題点の掘り起こしが不十分であるため、AYA 世代がん対策チームとして、入院患者のラウンド、会議を中心とした定期的活動を開始した。また、妊孕性温存に関して地域連携を図ることが重要と考え、以前より一部のがん診療とがん生殖医療に関わる医療スタッフで行われていた福岡がん生殖症例検討会に当院からも AYA 世代がん対策チームとして参加し、今後さらなる地域連携を図るための交流を行なった。

今後 AYA 世代がん患者サポート体制を充実させるための AYA 世代のがん患者の把握、捕捉の向上、地域での連携をより進める必要がある。

研究協力者

中山秀樹 九州がんセンター小児科医長

白石恵子 九州がんセンター臨床心理士

せるため交流を図った。

A. 研究目的

AYA 世代がん患者サポート体制の充実のために、院内職員および院外医療者に AYA 世代のがん医療の現状、課題についての関心を高め、理解を深めるための研修会を開催する。また、AYA 世代のがん患者の問題点の掘り起こしが不十分であるため、今後、AYA 世代のがん患者の把握、捕捉の向上に努める。また、妊孕性温存に関して、地域連携を図る。

B. 研究方法

1. AYA 世代がん対策チームとして定期的活動を開始した。
2. AYA 世代のがん医療の現状、課題について院内外の医療スタッフに対して研修会・講演会を行なった。
3. 妊孕性温存に関する地域連携を充実さ

C. 研究結果

1. AYA 世代がん対策チームの活動

小児科、乳腺科、腫瘍内科、血液内科、整形外科、婦人科、緩和ケアチームの医師、看護師、臨床心理士、理学療法士、ソーシャルワーカー、事務職など、様々な職種からなる AYA 世代がん対策チームが形成され、定期的活動を開始した。AYA 世代のがん患者の把握、捕捉のため、電子カルテをベースに AYA 世代入院がん患者を確認し、その中から数名を選択し、病棟にラウンドし、病棟スタッフと問題点などを話し合った。また、月に 1 回の会議で情報の共有、課題対策などを話し合った。

2. AYA 世代がん診療に関する研修会

(1)院内向け AYA 世代がん研修会
平成 30 年 10 月に、AYA 世代のがんの特徴、学習支援、意思決定支援、就労支援、妊孕性温存など重要なテーマに関する講義を 2 回にわたって行なった。

(2)院外医療者向けの講演会

平成 30 年 12 月 8 日当院主催の講演会で AYA 世代のがん医療をテーマに、AYA 世代のがんの特徴、学習支援、意思決定支援、就労支援、妊孕性温存などについて AYA 世代がん対策チームのメンバーが講演を行なった。

2. 実用新案

なし

3. その他

なし

3. 妊孕性温存に関する地域連携

平成 30 年 1 月 7 日、福岡がん生殖症例検討会にて、AYA 世代がん対策チームとして当院からも活動内容を発表した。福岡市を中心とした、がん診療に携わる医療者とがん生殖医療に携わる医師や医療スタッフと交流した。

D. 考察

がん専門病院であっても職員の AYA 世代がん診療に関する知識はまだ不十分であり、継続的な院内啓発、教育が必要であることがわかった。AYA がんサポート体制を充実させるためにはさらに地域の医療機関との連携が必須であり、院外の医療スタッフへの啓発、教育も継続的に行う必要がある。

E. 結論

AYA がんサポート体制の充実のため、更なる啓発、教育、地域連携の充実を図る必要がある。

F. 健康危険情報

該当なし

G. 研究発表

なし

H. 知的財産権の出願・登録状況

1. 特許取得

なし